

基準 3. 教育課程

3-1. 教育目的が教育課程や教育方法等に十分反映されていること。

(1) 3-1の事実の説明(現状)

3-1-① 建学の精神・大学の基本理念及び学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、研究科ごとの教育目的・目標が設定されているか。

本学は、個別学科の専門教育と共に「臨済禅による禅的人間教育」を行うことを重要な教育目的としている。表 3-1-1 は、本学の設置経緯、教育目的を学部・研究科別に示したものである。

表 3-1-1 大学・大学院における教育目的

区分	学部・研究科	設置経緯	教育目的
大学	文学部	1872 年に設置された般若林を母体とし、名称の変更を重ねながら、1949 年花園大学仏教学部と改称。1966 年史学科・国文学科の設置に併せて、文学部に改称した。	高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする。より具体的には、国際禅学科は、臨済宗門の後継者教育、史学科は、文献史学・フィールド系歴史学等の専門教育を身につけた人材の養成、国文学科は、日本文学・国語学、サブカルチャーを含む現代文化や書道の専門教育を身につけた人材の養成を目的としている。
	社会福祉学部	1964 年に設立された仏教福祉学科を 1992 年に社会福祉学部社会福祉学科として改組した。	文学部と同様「仏教精神によって人格を陶冶」する教育目的を踏まえながら、より具体的には、対人サービスを担うに相応しい豊かな感性と倫理観をもとに、福祉フィールドで働く、優れた指導的人材の養成を目的としている。
大学院	文学研究科	1980 年に設置した文学専攻科を拡充して、1994 年に仏教学・日本史学の 2 専攻で修士課程を設置した。1997 年国文学専攻修士課程設置。2000 年仏教学専攻に博士課程後期を設置した。	文学部における一般的及び専門的基礎の上に、さらに広い視野に立って精深な学識を授け、研究能力や高度の専門性を要する職業などに必要な高度の能力を養うことを目的とする。
	社会福祉学研究科	1998 年に設置、2007 年度には、社会福祉学専攻の中に、新しく臨床心理領域を設けた。	社会福祉学部の上位にあって、社会福祉の実践性を踏まえた研究能力を有する人材養成をめざしている。特に臨床心理領域では医療分野、教育分野で活躍する臨床心理士の養成を目的としている。

3-1-② 教育目標の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。

本学では、教育目的である「高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成」に基づいて、豊かな人間性の確立と、学習と研究を通じた知識の獲得及び、積極的に問題に取り組み解決できる主体性を確立すべく、教育課程を編成している。表 3-1-2 は、学部の教育課程の編成目的・編成方針と教育内容・方法をまとめたものである。この表は、大学設置基準上の教育目的に応じた「教育課程の編成方針」とこれに対応した「教育内容・方法」の関連性について記載している。

表 3-1-2 学部の教育課程の編成目的・編成方針と教育内容・方法

編成目的	教育課程・編成方針	教育内容・方法		
専門的知識・技術の教授	専門領域を極めるため、学科・コースを編成する	国際禅学科	インドブロック 中国ブロック 日本ブロック 禅思想ブロック 臨済宗学ブロック	
		史学科	総合日本史学コース 考古学・民俗学・美術史コース 禅文化史コース 情報歴史学コース	
		国文学科	国文学コース 現代文化コース 書道コース	
		社会福祉学科	社会福祉学コース 福祉介護コース（介護福祉士養成課程）	
		臨床心理学科	臨床心理学	
	資格・免許取得のため教職課程・資格科目を設ける	教職課程	中学校教諭1種 宗教・社会・国語、高等学校教諭1種 宗教・地理歴史・公民・国語・書道・福祉、特別支援学校教諭1種、学校図書館司書教諭	
		博物館学芸員課程	博物館学芸員資格	
		図書館司書課程	図書館司書資格	
		健康運動実践指導者受験資格課程	健康運動実践指導者受験資格	
		妙心寺派教師課程	妙心寺派教師資格	
社会福祉士受験資格課程		社会福祉士受験資格		
精神保健福祉士受験資格課程		精神保健福祉士受験資格		

		認定心理士資格課程	認定心理士資格
		諸資格課程	社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格
幅広い教養・総合的判断力・豊かな人間性の涵養	幅広い教養・豊かな人間性の涵養のために CDC 基礎科目を設ける	CDC 基礎科目	禅学基礎・人権教育・情報基礎・基礎英語・フレッシュパーソン・ゼミ
	幅広い教養・総合的判断力の涵養のために CDC ブロック科目を設ける	CDC ブロック科目	人間文化ブロック・英語コミュニケーションブロック・ハンブルブロック・中国語ブロック・体育ブロック・環境ブロック・情報ブロック・メディア文化ブロック・能力開発ブロック

3-1-③ 教育目的が教育方法等に十分反映されているか。

CDC 基礎科目は、すべて必修科目として設定され、基礎禅学 4 クラス、人権教育 8 クラス、情報基礎 4 クラス、基礎英語 40 クラス、フレッシュパーソン・ゼミ 40 クラスが編成され、授業を実施している。CDC ブロック科目は、そのブロックに合った教育方法が導入されている。たとえば、中国語ブロックの場合、入門科目群、進展科目群、向上科目群という区分により入門・会話・実習という内容の教育方法がとられている。

文学部国際禅学科は、必修科目群とブロック科目群に区分した教育方法を取っている。必修科目群は、「仏教とは何か」「禅とはなにか」「仏教の基礎知識」「実践禅学」等で編成されている。また、3 回生演習・4 回生演習と卒業論文がリンクするかたちの教育方法となっている。「実践禅学」は、坐禅堂を教室にして実施する教育方法が取られている。

文学部史学科は、学科共通必修科目、演習、卒業論文を必修科目群とし、コース必修科目、選択必修科目、選択科目を配置する編成となっている。学科共通必修科目には、1 回生「基礎演習」、2 回生「研究入門演習」を計 16 クラス開講し、少人数クラス編成の教育方法を取っている。また、史学科でも 3 回生演習・4 回生演習と卒業論文がリンクするかたちの教育方法となっている。考古学・民俗学・美術史コースでは、特にフィールド・ワーク（野外調査）を重視した教育方法を取っている。

文学部国文学科は、普通講義、講読、特殊講義、演習、卒業論文を必修科目とし、別途選択科目を開設している。普通講義には、1 回生必修で「研究入門」を 12 クラス設置し少人数による国文学研究の導入教育を実施している。文学部の他の学科同様 3 回生演習・4 回生演習と卒業論文がリンクするかたちの教育方法となっている。

社会福祉学部社会福祉学科では、コース必修科目と共通必修科目が必修科目群を編成し、この中に 3 回生演習と 4 回生演習が卒業論文とリンクするよう設定されている。これとは別に選択科目群が設けられている。社会福祉学科は文学部と異なり、実習を重視した教育方法が取られているのが特徴である。

社会福祉学部臨床心理学科は、必修科目群と選択科目群に区分した教育方法を取っている。必修科目群は、福祉・発達・臨床の 3 分野の心理学と 3 回生演習・4 回生演

習及び卒業論文で編成されている。

大学院文学研究科は、「学部の基礎の上に更に広い視野に立って精深な学識を授け、研究能力や高度の専門性を要する職業などに必要な高度の能力を養うことを目的」として、仏教学専攻・日本史学専攻・国文学専攻それぞれに、専修科目群と選択科目群に科目区分した教育方法を採用している。各専攻では、大学院の最終目的である修士論文(博士論文)の作成に向けた演習と特論を組み合わせた教育方法を工夫している。

大学院社会福祉研究科は、社会福祉制度や政策、社会福祉援助の研究を中心とする社会福祉学領域と臨床心理士養成課程である臨床心理学領域の2つの教育課程により、演習及び研究指導を柱とした教育方法を取っている。なお、臨床心理学領域では、特に臨床心理実習等の実習を重視した教育方法が取られている。

(2) 3-1の自己評価

教育目的・目標の設定は、個別学科の専門教育に加えて「臨済禅による禅的人間教育」を実施することであり、このことは、明確に設定されている。教育課程の編成方針・教育方法は、上記の目的に添って各学科で具体化され、教育課程が編成されている。専門科目の教育方法の原則的な形態として実施されている3回生演習・4回生演習とこれにリンクする卒業論文という教育方法は極めてよく機能しており、評価できる。また、2006年度より始まった全学必修のフレッシュパーソン・ゼミは、学生生活の援助や教員の授業改善方策としても効果が期待される。

(3) 3-1の改善・向上方策(将来計画)

文学部の教育課程については、学生のニーズや社会的需要に基づき、現行の体制から大幅な飛躍を試みて、今後の若い世代の学生に魅力ある教育を提供できるよう、すでにその見直し作業が進行中で、2008年度からは新体制での文学部が発足する予定である。

社会福祉学部では、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士などの資格取得の有無が卒業後の進路に大きく関わる。こうした資格取得の支援については、既に受験対策講座が実施されているが、今後さらにさまざまな形で支援策を講じる必要がある。

3-2. 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

(1) 3-2の事実の説明(現状)

3-2-①教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。

CDC: CDCとは Career Development Center の略称であり、全学部・学科の共通科目群である。その中で、基礎科目区分と各学科の副専攻的区分(CDC選択区分)があり、後者では各学科では取得できない資格の取得が可能である区分も含めて9ブロックを設けており、学生が資格取得、就職、語学スキル向上等の目的にそって幅広く学修できるようになっている。また、基礎科目区分では、現代に必要な情報基礎科目、本学の建学の精神である禅の基礎科目、人権科目、基礎英語科目、フレッシュパーソン・ゼミ等を1年次必修科目として開設している。CDCは、就職のための実力を養

成する機構でもあり、職業紹介と就職準備を正課に取り入れ、大学教育としての意義を堅持しつつ、実際の効果を生み出そうとする試みである。学生は、1ブロックに所属して副専攻とすると共に、他のブロック科目も自由に履修できる柔軟な教育課程となっている。

文学部国際禅学科：国際禅学科は、2002年4月に旧仏教学科から名称変更した。従来の仏教学科では、仏教学・禅学・宗学の3コース制によって学生の興味や目的に対応しつつ、有機的な学習ができるよう指導していたが、国際禅学科においては、これまでのカリキュラムを踏襲しつつ、コース制からブロック制へと移行した。国際禅学科のブロック制は、CDCにおけるブロック制とは異なり、いわば学習内容のセットメニュー化である。仏教は、時代の経過とともに、大まかにいえばインド・中国・日本へと伝播し、近代の哲学思想とも関係しつつ、現代の臨済宗門にまで継承されている。本学科のブロック制は、この時代と地域の変遷を踏まえて構成されており、学生の問題意識に対応する講座をひとまとめにしてある。従来のカリキュラムでいうと、普通講義・特別講義・講読などを、シラバスを確認しながら組み合わせて履修登録しなければならなかったが、あるブロックの科目を履修すれば、ブロック必修区分の28単位は自動的に取得できるように構成されている。さらに、主要な科目は演習担当教員が受け持っており、3回生時に演習を履修した際には、担当教員が個々の学生の希望や傾向を把握できている。選択ブロックは、2回生時に決定するが、他のブロックの科目を関連科目として履修した場合には、選択科目区分の単位として認められるため、履修に無駄がないように配慮されている。国際禅学科の教育課程の編成は、具体的には、インド・中国・日本・禅思想・臨済宗学の5ブロックからなっており、多様な領域の学習が可能である。臨済宗学ブロックは、宗門の後継者育成を主眼としており、将来の住職に不可欠な知識を学ぶと同時に、法式、布教などの実践科目も必修としている。

文学部史学科：史学科は、1966年4月に文学部設置と同時に開設された学科である。開設当時は、国史学コースと仏教史コースの2コースが置かれ、前者は日本史と東洋史の分野、後者では仏教史的な諸分野が学習できる科目編成となっていた。その後、幾多の変遷を経て、現在の史学科の教育課程は「総合日本史学コース」「考古学、民俗学、美術史コース」「情報歴史学コース」「禅文化史コース」の4コースを設置している。このうち、総合日本史学コースは、歴史学の王道ともいえる文献史学を主とした分野であり、古代史・中世史・近世史・近現代史の4つのゼミを置いている。考古学、民俗学、美術史コースは、フィールド系の歴史学を主とする分野であり、考古学、民俗学、美術史の3つのゼミからなる。情報歴史学コースは、コンピュータを全面的に駆使しながら歴史学の研究を行う新しい分野である。禅文化史コースは、本学の建学の理念を顕現する分野であり、臨済禅文化の歩みをたどるものである。このように史学科には、4コース9分野が設置されているが、それに基づき、カリキュラムは体系的に構成されている。すなわち、史学科の学生は1回生時にまず「日本史学入門」と「基礎演習」を受講することになる。前者は史学科の全専任教員がオムニバス方式で

担当し、それぞれの分野の入門的授業を行うとともに各コース・各ゼミのガイダンスを兼ねるものである。これを受講することにより、学生はそれぞれの分野についての基礎的なイメージを醸成することができ、それぞれが学びたい分野を選択するためのきっかけを与えられることになる。後者は歴史学にとって必要不可欠な文献史料（主として漢文史料）の解読の方法を学ぶものである。2回生進級にあたって学生はそれぞれの興味と関心に応じてコースを選び、「研究入門演習（2回生）」と「演習（3・4回生）」を通じて研究を深め、それを卒業論文に結実させることになる。千年の古都・平安京の条里の上に本学は位置しており、日本史学は勿論のこと、考古学や美術史などの分野でも、地の利を生かした研究・教育を行っている。

文学部国文学科：国文学科は、国文学コース（古典文学・国語学）、現代文化コース（近現代文学・大衆文学・映画映像・マンガ）、書道コースの3コースが設置されている。書道コースは2回生時に分け、国文学と現代文化コースは、3回生時に分けている。1回生で受講する「研究入門」は、古典文学と近代文学を研究するために必要不可欠な基礎的知識を身に付けるとともに、それを実習する科目であり、高校までの「国語」とは異なる「国文学」入門への動機付けともなっている。2回生で履修する「講読」は「国文学講読」と「現代文化講読」とがあり、偏りなく各1科目（通年）ずつ学ぶことを原則とする。予備登録制度を導入して人数調整しつつ、作品を読むための基礎的な知識の確認や方法の訓練を行うことを目的としている。また、現在の研究の状況を学べる「研究」を併せて受講することで、何を専門的に学ぶのか、「演習」の絞り込みと準備を進めるのに役立っている。3回生時に国文学と現代文化にコース分けをし、更にコースごとに、各自が専門的に学ぶ分野を決定した上で、3回生の「演習」を履修し、研究方法を具体的に深めるとともに、4回生の「演習」では、学生が興味を持ったテーマについて、研究を深める指導をしつつ、大学生活の集大成である「卒業論文」へと繋げて行く。2回生時で分けた書道コースは、「書道概論」や「日本書道史」「中国書道史」を受講して書道の歴史を幅広く学ぶと共に、「書論講読」を履修して、書道技術の習得だけを目指すのではないコースの設立趣旨に則して、書道の理論を学んで視野を広げる工夫を凝らしている。また、「実習」は6科目あり、「楷書」「行書」「草書」「隷書」「篆書」「仮名」「篆刻」など、すべての分野を学べるようになっている。3・4回生の演習は、制作の研究と理論の研究の2種類があり、選択してそれぞれの研究を深めることを目的としている。これと併せて、「制作」の実習があり、これを履修することで、「卒業制作」への準備ができるようになっている。大学生活での集大成は、「卒業制作（実作）」と「卒業論文（理論）」のいずれかを選択できるようになっている。

社会福祉学部社会福祉学科：社会福祉学科には、社会福祉学コースと福祉介護コースの2コースがある。これらのコースは、取得できる資格と関連した教学内容となっている。以下、実習、資格取得との関連で、両者の特徴を説明したい。

社会福祉学コースは、社会福祉学の原理的、理論的な部分と同時に実践的な部分を学ぶコースであり、社会福祉原論、社会福祉史、社会福祉援助技術などを軸に、援助

論、制度論、分野論などの科目から学んでいく。こうした専門科目は1回生から履修することができ、大学生活の早い時期から専門的な教育内容に触れていけるようになっている。社会福祉士受験資格取得のための実習はたいていの場合3回生で履修され、その準備としての「社会福祉実習指導1」は2回生で履修することになっている。さらに、社会福祉実習を終えた後も行政機関や病院などで実習を希望する学生はさらに4回生で「社会福祉研究実習」を行うことができる。社会福祉学科の学生は、所定の単位を修めることで、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができる。

福祉介護コースは、社会福祉士資格と同時に介護福祉士の資格取得を目指すコースであり、社会福祉学の学習に加えて、「介護概論」「介護技術」「介護実習指導」「介護実習」など、介護福祉実践に関する知識と技術を修めるための科目が用意されている。介護福祉士資格取得のための実習は1回生時から履修し、2、3、4回生と、それぞれ段階別の実習が用意されている。福祉介護コースの学生は、所定の単位を修めることで卒業時に介護福祉士の資格を取得（国家試験免除）することができる。社会福祉学科の専門教育の中心は「社会福祉学演習A」「社会福祉学演習B」である。本学の教員の多くは現場実践の経験があり、学生の希望をもとにゼミの振り分けが行なわれる。各教員は20名以下の人数規模で学習を深め、卒業論文の作成を行っている。

社会福祉学部臨床心理学科：臨床心理学科は、1回生では、「福祉心理学」「発達心理学」「臨床心理学」を中心に、心理学の基礎を学ぶ。さらに社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生は、「社会福祉原論」「社会福祉援助技術論」を履修し、社会福祉の基礎知識も学ぶ。2回生では、「心理研究法」「心理アセスメント論」「カウンセリング」など専門科目によって心理学の基礎を発展させる。社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生は「社会福祉援助技術論」「社会福祉実習指導」「精神保健福祉援助技術各論」を履修し、社会福祉実習や精神保健福祉実習に向けた研究を始める。3回生では、さらに各自の関心領域を深め、専門性の高い研究へと進めていく。具体的にはフィールド調査や実験デザインを設計する。また、社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生は、これらの研究の他に「社会福祉実習指導」「社会福祉実習」を選択し、高齢者、障害者、児童などの現場で4週間の現場実習を経験する。4回生では、各学生の自主的なテーマで卒業論文を完成させる。また、精神保健福祉士を目指す学生は、これらの研究の他に「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助演習」「社会福祉研究実習」を履修し、医療機関や精神障害者社会復帰施設などで4週間の現場実習を経験することとなっている。

大学院文学研究科：大学院文学研究科の教育課程の編成は、仏教学専攻においては、禅学研究を主眼とするという趣旨からも、禅思想研究と禅宗史研究を大きな柱として構成されている。禅僧の語録を中心とする禅籍の輪読とそこで展開してきた禅思想の分析あるいは他の思想との比較研究、また、さまざまな歴史史料の分析を通じての人物研究などのほか、コンピュータを用いた禅学研究についても力を入れている。もちろんこうした研究は、判然と区別して行われるものではなく、学生自身が設定したテーマに即して、組み合わせられながら進められるものである。史学専攻の教育課程の編

成は、古代史、中世史・近世史・近現代史・考古学・民俗学・美術史の7分野のいずれかを専攻し、研究者としての能力を2年間で修得する。カリキュラムは専修科目と選択科目の別を設けている。専修科目は院生が自らの専攻分野をじっくりと学ぶためのもので、ひとつの科目を2年間にわたって履修することになる。選択科目としては、各種分野の「研究特論」が設置されている。これは、専修科目に存在する7分野に加えて、地域史、仏教史、対外交渉史、古文書学の各分野を開講している。国文学専攻のカリキュラムは、専修科目として国文学および国語学の「演習」、選択科目として古代文学・中世文学・近世文学・近代文学および国語学の「研究特論」と「文学特殊研究」の科目が設置されている。

大学院社会福祉学研究科：社会福祉学研究科は、本学の社会福祉学部と直結したかたちで、学部教育の延長上でさらなる専門教育を深めること、社会福祉現場で活躍してきた本学卒業生のブラッシュ・アップおよび研究への取組みを可能とするための専門教育をすること、その他、社会福祉現場をはじめ広く社会人入学生を受け入れてリカレント教育の一拠点となることなどが目標とされ、とりわけ社会人への対応を考慮した昼夜開講を実施している。また、社会福祉学研究科は、設置当時の学部3コース制を積み上げるかたちで、政策、援助、心理の3分野を総合的に研究しながら実践的専門性も高めることができる環境を整備してきた。その後、臨床心理士養成課程を設置するに当たり、2006年度にカリキュラムの改編を実施し、社会福祉学専攻に「社会福祉学領域」と「臨床心理学領域」を設けた。「社会福祉学領域」は、演習科目として家族問題、児童問題、社会福祉の比較研究等のテーマを設定し、選択科目として社会福祉法制度特論、精神保健医療福祉特論、NPO法・運営特論、福祉調査特論等を開設している。「臨床心理学領域」は、臨床心理学演習を中心に、必修科目として臨床心理学特論、臨床心理学実習等を開設し、選択必修科目群として心理統計法特論、発達心理学特論、家族心理学特論、精神医学特論、心理療法特論等A群～E群の5群にわたる科目を配置している。

次に掲げる表は、教育課程編成に係る量的な現状を示したものである。表3-2-1は大学の学部・学科別履修単位数、表3-2-2は学部・学科別開設単位数、表3-2-3は授業科目の年次配当である。教育課程の編成としては、授業科目の種別をCD科目、学科必修科目、学科選択科目に分けている。このように教育課程全体を科目種別ごとに編成し、必修、選択別を定めるとともに、選択幅が十分となるよう設定、また、科目の年次配当を適当に行うことによって、4年間の教育を遂行する仕組みとして機能させている。

表3-2-4は大学院における授業科目と研究指導の概要を示したものであり、研究指導の基礎としての授業科目を設置し、修了要件となる単位を配当している。

表 3-2-1 大学の学部・学科別履修単位数

文学部

(単位数)

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科必修	ブロック必修	学科選択	合計
国際禅学科		1 2	4 8	2 4	2 8	1 2	1 2 4
史学科	総合日本史	1 2	4 8	4 3		2 1	1 2 4
	考古学・民俗学・ 美術史	1 2	4 8	4 4		2 0	1 2 4
	禅文化史	1 2	4 8	4 3		2 1	1 2 4
	情報歴史学	1 2	4 8	5 1		1 3	1 2 4
国文学科	国文学・現代文化	1 2	4 8	4 8		1 6	1 2 4
	書道	1 2	4 8	5 8		6	1 2 4

社会福祉学部

(単位数)

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科・コース必修	学科・コース選択	合計
社会福祉学科	社会福祉	1 2	4 8	2 4	4 0	1 2 4
	福祉介護	1 2	3 6	4 2	3 4	1 2 4
臨床心理学科		1 2	4 8	2 4	4 0	1 2 4

表 3-2-2 大学の学部・学科別開設単位数

文学部

(単位数)

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科必修	ブロック必修	学科選択	合計
国際禅学科		3 0	6 1 1	3 2	1 6 8	1 6 0	1 0 0 1
史学科	総合日本史	3 0	6 1 1	7 3		2 3 2	9 4 6
	考古学・民俗学・ 美術史	3 0	6 1 1	8 8		2 2 7	9 5 6
	禅文化史	3 0	6 1 1	7 3		2 3 2	9 4 6
	情報歴史学	3 0	6 1 1	6 7		2 3 8	9 4 6
国文学科	国文学	3 0	6 1 1	1 6 6		1 7 6	9 8 3
	現代文化	3 0	6 1 1	1 6 6		1 7 6	9 8 3
	書道	3 0	6 1 1	1 9 6		1 4 6	9 8 3

社会福祉学部

(単位数)

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科・コース必修	学科・コース選択	合計
社会福祉学科	社会福祉	3 0	6 1 1	2 4	1 1 2	7 7 7
	福祉介護	3 0	6 1 1	5 2	9 5	7 8 8
臨床心理学科		3 0	6 1 1	2 4	1 5 6	8 2 1

表 3-2-3 授業科目の年次配当

文学部

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科必修	ブロック必修	学科選択
国際禅学科		1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次	1～4 年次	1～4 年次
史学科	総合日本史	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次
	考古学・民俗学・ 美術史	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次
	禅文化史	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次
	情報歴史学	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次
国文学科	国文学・現代文化	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次
	書道	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次		1～4 年次

社会福祉学部

区分		CDC 必修	CDC ブロック	学科・コース必修	学科・コース選択
社会福祉学科	社会福祉	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次	1～4 年次
	福祉介護	1 年次	原則 1・2 年次	1～4 年次	1～4 年次
臨床心理学科		1 年次	原則 1.2 年次	1～4 年次	1～4 年次

表 3-2-4 大学院の修了要件

文学研究科

専攻	課程	科目履修		研究指導
		必要単 数	開設単位 数	
仏教学専攻	後期博士課程	1 6	1 0 4	必要な研究指導を受け博士論文の審査及び最終試験に合格
	修士課程	3 2	9 2	必要な研究指導を受け修士論文の審査及び最終試験に合格
日本史学専攻	修士課程	3 2	1 1 2	必要な研究指導を受け修士論文の審査及び最終試験に合格
国文学専攻	修士課程	3 2	9 6	必要な研究指導を受け修士論文の審査及び最終試験に合格

社会福祉学研究科

専攻	領域	課程	科目履修		研究指導
			必要単 位数	開設単位 数	
福祉学 専攻	社会福祉	修士課程	3 2	4 0	必要な研究指導を受け修士論文の審査及び最終試験に合格
	臨床心理		3 4	6 0	

3-2-② 教育課程の編成方針に即した授業科目、授業の内容となっているか。

表 3-2-1「大学の学部・学科別履修単位数」と表 3-2-2「大学の学部・学科別開設単位数」から授業編成の方針に基づいた開設科目の全体構成が明らかである。全体的な観点では卒業要件の 124 単位に対し、各学科の開設科目の合計は 1,001～777 単位である。授業科目種別ごとに開設科目を見るとかなりの選択幅があることがわかる。授業

科目の年次配当については、ごく少数の科目に年次固定はあるものの、ほとんどの科目は極めてオープンな状態となっている。

表 3-2-5 に授業科目の単位・授業方法・授業内容・授業日程等に関する規定を示した。具体的な授業はこれらの規定に基づいて実行されている。以上を総合し、教育課程の編成方針に即した授業科目・授業内容として十分に機能している。

特に社会福祉学部では「福祉フィールドで働く優れた指導的人材の養成」を具体化する方策として実習を重視し、国家試験対策を目的とした「社会福祉特論」を開講している。

表 3-2-5 授業科目の単位・授業方法・授業内容・授業日程

単位制	授業科目に与えられた単位を、一定の基準に従い履修取得し、履修規程に定められた単位数に達することにより、卒業又は修了の資格が得られる制度である。		「学修ガイドブック(上)」	
授業期間	授業期間は、原則として前期と後期にわたる通年科目と、前期(4月1日～9月30日)又は後期(10月1日～3月31日)のいずれか半期で終了するものがある。		学則第28条 「学修ガイドブック(上)」	
科目の種類	科目はその性質により原則として講義・演習・実験実習に分類される。	講義	毎週2時間15週を2単位とする。	学則第19条 「学修ガイドブック(上)」
		演習	毎週1又は2時間15週を1単位とする。	
		実験実習	毎週2又は3時間15週を1単位とする。	
単位の授与	履修科目の認定は、試験による。試験は学期末又は学年末に筆記・口述・論文などによって行う。		学則第22条	
授業内容	授業内容については、「学修ガイドブック(下)講義概要」を毎年発行し、科目名、担当者名、講義テーマ、授業の目的、授業方法及び授業計画、成績評価の基準、テキスト等を記載して、学生に明示している。		「学修ガイドブック(下)(講義概要)」	
学年暦・年間授業日程表	1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週であり、「学修ガイドブック(上)」に学年暦・年間行事予定表として、「入学式・学位記授与式(卒業式)」「オリエンテーション」「前期授業開始・終了日」「後期授業開始・終了日」「前期・後期補講日」「前期・後期定期試験日」「夏期・冬期休暇」「学園祭等の大学行事日」等について学生に明示している。		学則第19条の2 学則第28条 「学修ガイドブック(上)」	

3-2-③ 年間学事予定、授業時間が明示されており、適切に運営されているか。

年間学事予定の明示については、年度ごとの「学修ガイドブック」「学生手帳」等に明示して厳格に運営している。表 3-2-5 はそれを具体的に記載したものである。なお、本学の授業時間は、1講時の授業を90分で実施し、単位換算における2時間としている。

3-2-④ 年次別履修科目の上限と進級・卒業・修了要件が適切に定められ、適用されているか。

表 3-2-6 に履修科目の上限、進級、卒業、修了要件について示した。これらは、学則、履修要項に規定され、厳格に運用されている。

表 3-2-6 履修科目の上限・進級、卒業・修了要件（大学）

大 学	履修 単 位 数 の 上 限	各年次にわたり適切に科目を履修するために、1年間に登録する単位数の上限を定めている。ただし、4年次は登録制限を緩和することがある。		1.2.3年	50単位	学修ガイドブック(上) 「履修について」						
				4年(卒業年次)	制限緩和							
	進級	文学部史学科と社会福祉学部は、「演習A」(3年次履修)と「演習B」(4年次履修)が段階履修となっている。「演習A」の単位取得が「演習B」の登録の条件となっているため、「演習A」の単位を取得できない場合、進級できない。 文学部国際禅学科・国文学科は、上記の履修条件を設けていない。					学修ガイドブック(上) 「学科別履修上の留意事項」					
	卒業 認定	本学に4年以上在学し、右記の単位を修得した者に対して卒業を認める	学部	学科	コース	必修科目	選択科目	CDC科目	合計	学修ガイドブック(上) 「履修について」		
			文学部	国際禅学科		5 2	1 2	6 0	1 2 4			
					史学科	総合日本史学	4 3	2 1	6 0		1 2 4	
						考古学・民俗学・美術史	4 4	2 0	6 0		1 2 4	
						禅文化史	4 3	2 1	6 0		1 2 4	
			情報歴史学	5 1		1 3	6 0	1 2 4				
			国文学	国文学	4 8	1 6	6 0	1 2 4				
				現代文化	4 8	1 6	6 0	1 2 4				
				書道	5 8	6	6 0	1 2 4				
			社会福祉学部	社会福祉学科	社会福祉学	2 4	4 0	6 0	1 2 4			
		福祉介護		4 2	3 4	4 8	1 2 4					
		臨床心理学科			2 4	4 0	6 0	1 2 4				

表 3-2-7 履修科目の上限・進級、卒業・修了要件（大学院）

大 学 院	修了認定 (修士課程)	2年以上在学し、所定の科目について32単位以上を修得し、必要な研究指導	研究科	専攻	専修科目	選択科目	合計	学修ガイドブック(上)大学院
			文学研究科	仏教学専攻	1 6	1 6	3 2	
				日本史学専攻	8	2 4	3 2	
				国文学専攻	8	2 4	3 2	

	を受け修士論文の審査及び最終試験に合格したものを、修了者とする。	社会福祉学専攻	専攻	必修科目	選択科目	合計	
			社会福祉学専攻(社会福祉学領域)	4	28	32	
			社会福祉学専攻(臨床心理学領域)	22	12	34	
修了認定 (博士後期課程)	3年以上在学し、所定の科目について16単位以上を修得し、必要な研究指導を受け博士論文の審査及び最終試験に合格したものを、修了者とする。	文学研究科	専攻	選択必須科目	選択科目	合計	
			仏教学専攻	12	4	16	

3-2-⑤ 教育・学習結果の評価が適切になされており、その評価の結果が有効に活用されているか。

教育・学習結果の評価は、「花園大学学則」「花園大学履修規程」「花園大学試験規程」によって、厳格に運用されている。表3-2-8は、成績評価基準である。

履修科目の成績は、定期試験、臨時試験、追試験の試験成績を主とし、出席状況、平常の学習状況、レポートその他の成績を加味して科目担当者が評定している。各授業の成績評価基準は、シラバス（講義概要）にあらかじめ明示されている。

本学が教育上有益と認めるときは、学生が短期大学又は高等専門学校の専攻科において履修した授業科目や入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができるよう、花園大学学則第19条の4、第19条の5において規定している。

表3-2-8 成績評価（学部・大学院）

成績評価	100点～80点	A	優	合格	学則第23条 学修ガイドブック（上） 「履修について」
	79点～70点	B	良		
	69点～60点	C	可		
	60点未満	D	不可		
		K	定期試験放棄で不可 出席不良で不可	不合格	

大学院の成績評価に関しては、筆記又は口述試験、若しくは研究報告等により、担当教員が各科目の授業終了時に行う。その成績評価は、表3-2-8に示す通りである。

3-2-⑥ 教育内容・方法に、特色ある工夫がなされているか。

社会的な教育問題として取り上げられている学力低下問題、多様な入学試験による入学生の学力のバラツキ、高校での「学び」と大学での「学び」の差によるとまどいの解消等のため、1回生の時点で10名程度の規模でフレッシュパーソン・ゼミを実施し、中等教育から高等教育への円滑な繋がりや学修・生活スタイルの修得を図るための導入教育を実施している。

CDC科目の「基礎禅学」は、本学の建学の精神を具現化する科目として設定されている。この科目は、本学に在学する全学生に、本学の教学の根本である「禅」とは何かについて学び、実践してもらうことを目的としている。そのため、臨済禅について深い識見を有する学長を含めた5人の教員がオムニバス方式で担当し、講義と坐禅の実習を行っている。

国際禅学科の「実践禅学」は、坐禅堂を使用して実施される授業で、禅語録の提唱と坐禅の実習を中心とした科目である。大学の授業科目としては、その授業形態や授業内容において大変特色のあるもので、他にはまず例を見ないものである。

新入生の導入教育については、表3-2-9に示す通りである。また、資格取得教育の概要は、表3-2-10に示す通りである。

表3-2-9 導入教育プログラムの概要

オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 入学式後3日間、新入生を対象とする各種のオリエンテーションを実施している。その内容は「CDC単位登録指導」「CDCブロック別単位登録指導」「学科別単位登録指導」「学生生活ガイダンス」「図書館ガイダンス」「坐禅指導」等である。これらは各学科・課程の教員や学生部・教務部・図書館・宗教部などで担当している。 学科別に1泊2日の新入生学外オリエンテーションを実施している。これは、各学科の専任教員が新入生を引率して学外に出かけ、各学科についてのガイダンスや学生同士、学生と教員のコミュニケーションを図ると同時に、導入・専門教育に関わる教育相談や助言などを行う機会としても活用している。
履修要項とシラバス	<ul style="list-style-type: none"> 「学修ガイドブック(上)履修要項」は、新入生の導入教育に欠かせない印刷物であると同時に、大学4年間で修得すべきカリキュラム構成を概観し、計画的に勉学を進めるための役割を担っている。 シラバスに当たる「学修ガイドブック(上)講義概要」で、学生はそれぞれの科目の「授業目的」「授業計画」「テキスト」「評価基準」などを知ることができる。 履修要項と講義概要の発行によって大学全体の教育内容の公開性が保たれると同時に、学生にとっては計画的・積極的な勉学を誘導する効果が期待できる。
フレッシュパーソン・ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 新入生が大学での「学び」につまずかないよう「大学の教育・研究」についての入門ゼミとしてフレッシュパーソン・ゼミを開設している。内容は「オリエンテーション」「大学での学習目標の設定」「講義ノートの取り方」「資料の集め方」「図書館の利用のしかた」「レポート作成の方法」等である。全新入生を対象に40クラスが開設されている。担当教員は、本学の専任教員が手分けしてこれに当たっている。

表 3-2-10 資格取得教育の概要

(1) 教職課程

学 部	学 科	取得できる免許の教科
文学部	国際禅学科	宗教（中学・高校）
	史学科	社会（中学）、地理歴史（高校）、公民（高校）
	国文学科	国語（中学・高校）、書道（高校）
社会福祉学部	社会福祉学科	社会（中学）、地理歴史（高校）、公民（高校）、福祉（高校）特別支援学校
	臨床心理学科	福祉（高校）特別支援学校

(2) その他の資格課程

資 格	文学部			社会福祉学部	
	国際禅学科	史学科	国文学科	社会福祉学科	臨床心理学科
学校図書館司書教諭					
博物館学芸員					
図書館司書					
健康運動実践指導者受験資格					
社会福祉士受験資格					
精神保健福祉士受験資格					
介護福祉士				(福祉介護コース)	
社会教育主事任用資格					
社会福祉主事任用資格					
認定心理士					

(2) 3-2の自己評価

教育課程の編成方針と授業科目の関係は、たとえば、文学部国際禅学科は、寺院子弟を含めて、本格的な仏教の知識が全くない学生が入学し、仏教を学ぶための基本となる漢文読解能力が低い学生が増加していて、基礎教養の不足による相当数の学生が学習意欲を減退させている現状があり、それ故に、基本的なレベルで、高品質な基礎教育が要求されており、学科教員が連携して行う基礎教育の充実を図ることが急務となっている。

史学科は、文学部の他の学科に比較して入学定員が多いこともあって、人気の高いゼミは限度を超える学生が殺到して、きめ細やかな研究指導に支障を来たしかねない状況にある点は、改善を必要としている。国文学科は、現代文化コースが国文学科の枠に留まらない広がりを持っており、学科内の1コースという位置付けが難しい状況となってきている。また、2006年度より始まった全学必修のフレッシュパーソン・ゼミは学生生活の援助として、また教員の授業改善方策としても効果が期待される。

社会福祉学部では、社会福祉士・介護福祉士等の資格取得においては現場実習が必須とり、巡回指導などこれに関わる教員の負担が大きく、研究活動に支障をきたしているという現状がある。今後教員数の増加などによってか解決しなければならない課題である。さらに、臨床心理学科については、既に多くの大学に設置されており、よ

り本学の特徴を明確にした教育課程の編成が検討されねばならない。

なお、年間行事予定、授業時間、年次別履修科目の上限と進級、卒業、成績評価等は、「学修ガイドブック」に明示され、適切に運用されている。

(3) 3-2の改善・向上方策（将来計画）

教育課程の体系的な編成については、1回生における必修科目である「フレッシュパーソン・ゼミ」が入学時期の新入生オリエンテーションとともに導入教育として、入学後に生じやすい学生の精神的不安の解消に役立っているところであるが、3回生以降に実施される演習までの橋渡しとして、「2回生ゼミ」を設置することで継続的に学生の大学適応をより向上させることができると考えられ、クラスアドバイザー制度の充実とあわせて、今後、教務委員会等で検討して行く予定である。

体系的な教育課程の設定という視点からは、文学部において、その組織・教育課程を大幅に改編する計画に着手している。この改組計画は、現在の3学科体制を、定員を増加させずに5学科体制にするというものである。具体的には、史学科の「考古学・民俗学・美術史コース」を分離独立させる形で文化遺産学科を設置し、史学科は日本史学科に名称変更する。また、国文学科は、「現代文化コース」を分離独立させる形で「創造表現学科」を設置し、国文学科は、日本文学科に名称変更する。また、国際禅学科の入学定員を現在の70名から55名に減少させ、新学科の定員に移行させる予定である。この学科改組等は、2008年度から実施する予定である。

社会福祉学部では、既に取得可能な「社会福祉主事」「社会福祉士」「精神保健福祉士」「介護福祉士」「認定心理士」のほかに、「福祉住環境コーディネーター」「販売士」「ホームヘルパー」「メンタルヘルス・マネジメント検定」「ケアマネジャー」「介護予防運動指導員」「保育士」などの資格も取得できるよう、教育課程の整備を検討している。社会福祉学科においては、毎年多くの国家試験（社会福祉士、精神保健福祉士）の合格者を排出しているが、その合格率の点では全国平均に達していない。昨年からの対策として特別講義「社会福祉学特論」が3、4回生を対象に開講されたが、今後よりいっそうの充実が求められており、学科会議において内容の充実を図ることとなっている。また、臨床心理学科の特徴付けとしては、本学の場合、建学の精神である臨濟禅の精神をカリキュラムに反映すること、あるいは「犯罪心理学」「コミュニティ心理学」など本学科の教員の専門領域を生かしたカリキュラム編制を考えたい。あわせて、今後は、認定心理士資格をもった社会福祉士や産業カウンセラーなど、心理の専門家の養成に力を入れていきたいと考えている。

大学院社会福祉学研究科については、現在、修士課程のみが設置されているが、さらに社会的要請に応える意味でも博士課程の設置が望まれるところである。臨床心理学領域においては優れた臨床心理士の養成を目的とし、2007年度に最初の卒業生を輩出する予定である。既に第一種の指定校の指定を受け、カリキュラムの評価を受けたところである。当面は卒業生全員を臨床心理士認定協会の資格試験に合格させることが課題となる。そのためには、試験対策としてのより充実したカリキュラム、たとえば特別講座などを設ける必要があるかもしれない。また、他大学との協力・共同研究活動と同時に、今後は国際的な学術研究活動を推進する予定である。

[基準3の自己評価]

本学の教育目的・目標の設定は、個別学科の専門教育に加えて「臨済禅による禅的人間教育」を実施することであり、このことは、明確に設定されている。教育課程の編成方針・教育方法は、上記の目的に添って各学科で具体化され、教育課程が編成されている。特にC D Cにおける全学必修の「基礎禅学」の開設は、本学の建学の精神との関係から、大変独自性の強いものであるといえる。また、専門科目の教育方法の原則的な形態として実施されている3回生演習・4回生演習とこれにリンクする卒業論文という教育方法は、極めてよく機能しており、評価できる。

個別の学科の教育課程の編成については、たとえば、文学部国際禅学科は、仏教を学ぶための基本となる漢文読解能力が低い学生が増加しているため、基本的なレベルで、高品質な基礎教育が要求されており、学科教員が連携して行う基礎教育の充実を図ることが急務となっている。史学科は、入学定員が多いこともあって、人気の高いゼミは限度を超える学生が殺到して、きめ細やかな研究指導に支障を来たしかねない状況にある点は、改善を必要としている。国文学科は、現代文化コースが国文学科の枠に留まらない広がりを持っており、学科内の1コースという位置付けが難しい状況となってきた。2006年度より始まった全学必修のフレッシュパーソン・ゼミは学生生活の援助として、また教員の授業改善方策としても効果が期待される。

なお、年間行事予定、授業時間、年次別履修科目の上限と進級、卒業、成績評価等は、「学修ガイドブック」に明示され、適切に運用されている。

[基準3の改善・向上方策（将来計画）]

文学部の教育課程は、現在大幅な改組計画が進行中である。具体的には、史学科の「考古学・民俗学・美術史コース」を分離独立させる形で文化遺産学科を設置し、史学科は日本史学科に名称変更する。また、国文学科は、「現代文化コース」を分離独立させる形で「創造表現学科」を設置し、国文学科は、日本文学科に名称変更する。また、国際禅学科の入学定員を現在の70名から55名に減少させ、新学科の定員に移行させる予定である。この学科改組は、2008年度から実施される。

社会福祉学部では、「福祉住環境コーディネーター」「販売士」「ホームヘルパー」「メンタルヘルス・マネジメント検定」「ケアマネジャー」「介護予防運動指導員」「保育士」などの資格取得が可能な教育課程を整えたいと考えている。

社会福祉学研究科（大学院）については、現在修士課程のみが設置されているが、さらに社会的要請に応える意味でも博士課程の設置が望まれるところである。